

常広コア専門学校 介護職員初任者研修カリキュラム

【本校の特徴】

本校は介護福祉士養成校として、本研修を修了した者が、国家資格者である介護福祉士を目指し介護現場で就労できるよう研修を行う。

【研修科目と研修時間】

科目名	項目	時数	研修時間	形態	
1. 職務の理解	①多様なサービスの理解	3時間	6時間	講義	
	②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間			
2. 介護における尊厳の保持・自立支援	①人権と尊厳を支える介護	4.5時間	9時間	講義	
	②自立に向けた介護	4.5時間			
3. 介護の基本	①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間	6時間	講義	
	②介護職の職業倫理	2時間			
	③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1時間			
	④介護職の安全	1時間			
4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	①介護保険制度	4時間	9時間	講義	
	②医療との連携とリハビリテーション	3時間			
	③障害者総合支援制度およびその他制度	2時間			
5. 介護におけるコミュニケーション技術	①介護におけるコミュニケーション	3時間	6時間	講義	
	②介護におけるチームのコミュニケーション	3時間			
6. 老化の理解	①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	6時間	講義	
	②高齢者と健康	3時間			
7. 認知症の理解	①認知症を取り巻く状況	1時間	6時間	講義	
	②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間			
	③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2時間			
	④家族への支援	1時間			
8. 障害の理解	①障害の基礎的理解	1時間	3時間	講義	
	②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、 かかわり支援等の基礎的知識	1時間			
	③家族の心理、かかわり支援の理解	1時間			
9. こころとからだのしくみと生活支援技術	①介護の基本的な考え方	3時間	75時間	講義 演習	
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3時間			
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4時間			
	④生活と家事	6時間			
	⑤快適な居住環境整備と介護	3時間			
	⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8時間			
	⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護	8時間			
	⑧食事に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護	8時間			
	⑨入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に 向けた介護	8時間			
	⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8時間			
	⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	2時間			
	⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	2時間			
	⑬介護過程の基礎的理解	3時間			
	⑭総合生活支援技術演習	9時間			
10. 振り返り	①振り返り	2時間	4時間	演習	
	②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2時間			
合計			130時間		

- *1 講義と演習を一体的に実施する。
- *2 「9. こころとからだのしくみと生活支援技術」には、介護に必要な基礎的知識の理解の確認と、生活支援技術の習得状況の確認を含む。
- *3 上記とは別に、筆記試験による修了評価（1時間以上）を実施する。

【実習】

- ・介護福祉士養成の実習に準じて、本校実習先にて体験的実習を行う。
- ・「1. 職務の理解」、「9. こころとからだのしくみと生活支援技術」及び「10. 振り返り」において、施設の見学等の実習（5日以内）を活用することもある。なお、「9. こころとからだのしくみと生活支援技術」において、実習を活用する場合には、75時間中12時間を上限時間とする。
- ・実習前には、実習の心構えと注意事項を学習する。
- ・実習中には、本校と実習先指導者と密に連絡を取り合い、随時の指導と日誌の記録。
- ・実習後には、実習の成果発表を行う。

【各科目の到達目標、評価、内容】

1. 職務の理解（6時間）

(1) 到達目標・評価の基準

ねらい	研修に先立ち、これから介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
-----	--

(2) 内容

特徴	・研修課程全体（130時間）の構成と各研修科目（10科目）相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ・現場の介護福祉士による講義や実習を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解する。
内容	1. 多様なサービスの理解 2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解

2. 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）

(1) 到達目標・評価の基準

ねらい	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解する。
評価ポイント	・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。

(2) 内容

特徴	・利用者及びその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。 ・利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。 ・虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。
内容	1. 人権と尊厳を支える介護 (1) 人権と尊厳の保持 (2) ICF (3) QOL (4) ノーマライゼーション (5) 虐待防止・身体拘束禁止 (6) 個人の権利を守る制度の概要 2. 自立に向けた介護 (1) 自立支援 (2) 介護予防

3. 介護の基本（6時間）

(1) 到達目標・評価の基準

ねらい	・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 ・介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。
-----	---

修了時の評価ポイント	・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。 ・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。 ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。 ・生活支援の場では出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。 ・介護職におこりやすい健康被害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。
------------	---

(2) 内容

特徴	・介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人に対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。
内容	1. 介護職の役割、専門性と多職種との連携 (1) 介護環境の特徴の理解 (2) 介護の専門性 (3) 介護に関わる職種 2. 介護職の職業倫理 3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント (1) 介護における安全の確保 (2) 事故予防、安全対策 (3) 感染対策 4. 介護職の安全

4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）

(1) 到達目標・評価の基準

ねらい	介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。
修了時の評価ポイント	・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 ・介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。 ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。 ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。 ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士制度等が行う医行為などについて列挙できる。

(2) 内容

特徴	・介護保険制度・障害者総合支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解する。 ・利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者総合支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。
内容	1. 介護保険制度 (1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 (2) 仕組みの基礎的理解 (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 2. 医療との連携とリハビリテーション 3. 障害者総合支援制度およびその他制度 (1) 障害者福祉制度の理念 (2) 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 (3) 個人の権利を守る制度の概要

5. 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）

(1) 到達目標・評価の基準

ねらい	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。
修了ポイントの評価	・ 共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。 ・ 家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。 ・ 言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。 ・ 記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

(2) 内容

特徴	・ 利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ・ チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。
内容	1. 介護におけるコミュニケーション (1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 (2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション (3) 利用者、家族とのコミュニケーションの実際 (4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 2. 介護におけるチームのコミュニケーション (1) 記録における情報の共有化 (2) 報告 (3) コミュニケーションを促す環境

6. 老化の理解（6時間）

(1) 到達目標・評価の基準

ねらい	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。
修了ポイントの評価	・ 加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 ・ 高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

(2) 内容

指導の視点	高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。
内容	1. 老化に伴うところとからだの変化と日常 (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 2. 高齢者と健康 (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点

7. 認知症の理解（6時間）

(1) 到達目標・評価の基準

ねらい	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。
修了時の評価ポイント	・ 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。 ・ 健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。 ・ 認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。 ・ 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。 ・ 認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。 ・ 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。 ・ 認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。 ・ 家族の気持ちや、家族を受けやすいストレスについて列挙できる。

(2) 内容

視点の指導	・ 認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ・ 複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。
内容	1. 認知症を取り巻く状況 2. 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 3. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 (2) 認知症の利用者への対応 4. 家族への支援

8. 障害の理解（3時間）

(1) 到達目標・評価の基準

ねらい	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。
修了時の評価ポイント	・ 障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ・ 障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

(2) 内容

視点の指導	・ 介護において障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。 ・ 高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。
内容	1. 障害の基礎的理解 (1) 障害の概念とICF (2) 障害者福祉の基本理念 2. 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 (1) 身体障害 (2) 知的障害 (3) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） (4) その他の心身の機能障害 3. 家族の心理、かかわり支援の理解

9. こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）

(1) 到達目標・評価の基準

ねらい	・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
修了時の評価ポイント	・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。 ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。 ・利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。 ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。 ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。 ・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。 ・装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。 ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。

(2) 内容

特徴	・総時間の概ね5～6割を技術演習にあてることとし、その他の時間は、個々の技術に関連したこころとからだのしくみ等の根拠の学習及び技術についての講義等に充てる。 ・介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体各部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ・サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。 ・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。
内容	<Ⅰ. 基本知識の学習・・・10時間> 1. 介護の基本的な考え方 2. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解 3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 <Ⅱ. 生活支援技術の学習・・・50時間> 4. 生活と家事 5. 快適な居住環境整備と介護 6. 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 7. 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 8. 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 9. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 10. 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 11. 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 12. 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護 <Ⅲ. 生活支援技術演習（現場実習含む）・・・15時間> 13. 介護過程の基礎的理解 14. 総合生活支援技術演習及び現場実習

10. 振り返り（4時間）

(1) 到達目標・評価の基準

ねらい	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。
-----	--

(2) 内容

特徴	・在宅、施設の何れかの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、対応の態度等の礼節を含む。）を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたいえで、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。 ・修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるように促す。 ・最新知識の付与と、次のステップ（職場環境への早期適応等）へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。 ・現場実習等も取り入れる。
内容	1. 振り返り 2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修